

建物を時代に合わせるアプリケ

時代に合わせて建物のファサードを変化させている。



昭和初期

出典 結城市観光案内ホームページ、結城市の民住蔵
http://hyakki.my.cocon.jp/yakushimamotoku3.htm



現在

結城市城下町にみられたアプリケの数々



門のアプリケ



小屋のアプリケ



看板と庇のアプリケ



駐輪場のアプリケ



アプリケのような立面装飾



テラスのアプリケ



店のアプリケ



エントランスのアプリケ

アプリケ・アップデーティング

補修や看板として加えられた板が元の町屋を「地」として「図」を成して貼られている様に見えることから、これを衣服の破れた箇所などに貼られる手芸のアプリケになぞらえて、アプリケ・アップデーティングと呼ぶことにした。

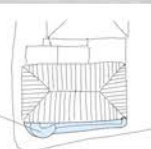


地：元からある町屋

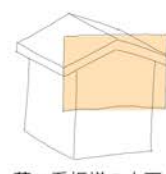
図：補修や看板として加えられた薄い板

町家に看板をアプリケしている

半間分増設されている



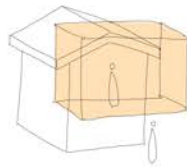
薄い看板様の板を人が入れる厚さまで広げ、極薄空間を増設することで旧城下町の暮らしをアップデートする。



薄い看板様の立面



人が入れる広さにする



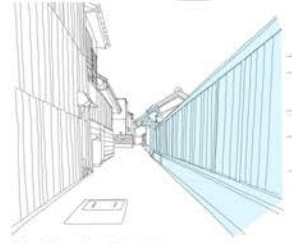
極薄空間の増設

□計画地の現況調査

伝統産業の継承と現代生活への適応について、それぞれ徒歩での体験を可能とする、亀甲通りと無名の通りの2本の通りを計画地として選定した。



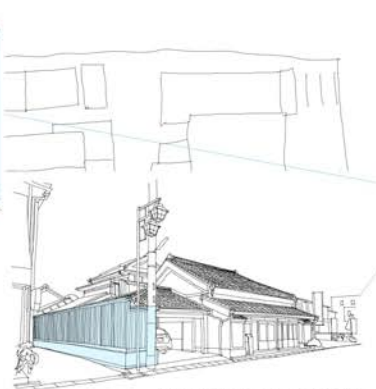
大町の亀甲通り 地面のタイルが亀甲柄



狭い道の高い塀と門



糸綿店と元造花店
看板が増設されている



明治時代に建設されて見世蔵



壊れた塀とベランダ

伝統産業を体験する通り

ここから車は、通れない

現代生活に適応する通り

小さいスペースが増設されている

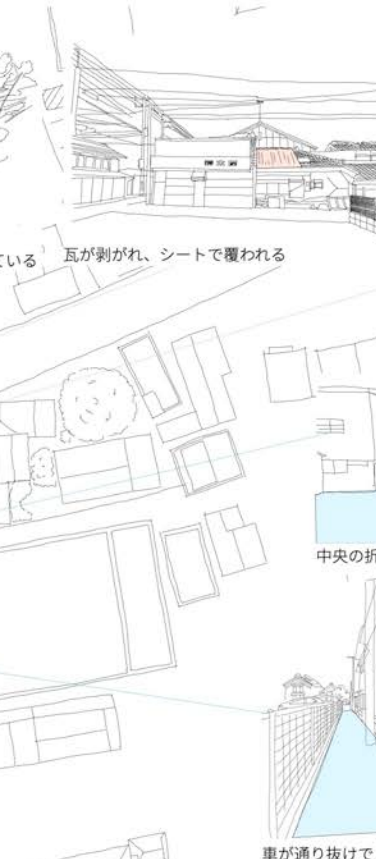


土壁と瓦が剥がれている

瓦が剥がれ、シートで覆われる

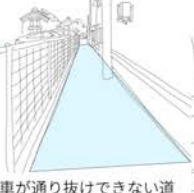


大谷石の蔵と塀が繋がる



角を覆うように看板が増設されている

中央の折り返し地点にある開けた駐車場



車が通り抜けできない道

伝統産業を体験する通り
この通りには、結城紬の生産工程に関わる極薄空間を、既存建物の道から見える位置に増設し、通り
を小さな博物館に変え、観光客を受け入れる。

01 売店アプリケ



02 鳥かごアプリケ



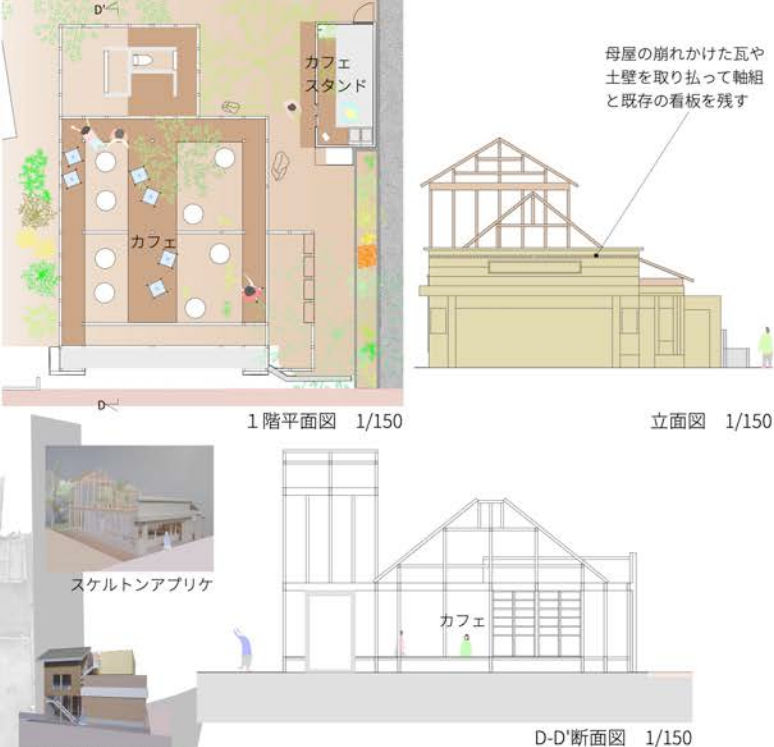
03 織り小屋アプリケ



05 貸し織り小屋アプリケ



04 スケルトンアプリケ



06 クラウンアプリケ・蔵ファサードアプリケ



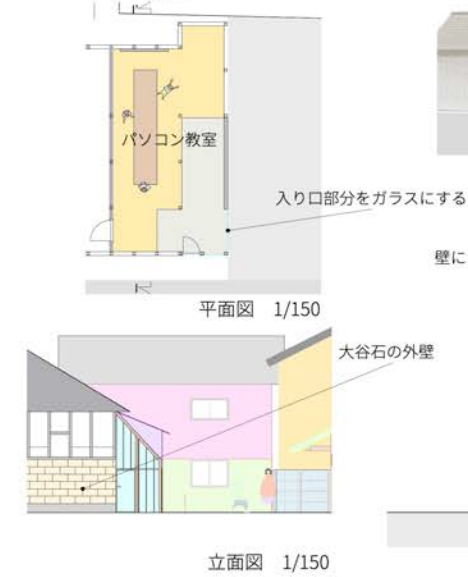
現代生活に適応する通り

途中で自動車が行き止まるこの通りでは、中央の折り返し地点に開けた駐車場がある。ここを地域住民が集まる中心として、通りから使う設備の空間や、現代の暮らしを支える設備や装置を増設し、地域住民がふらりと立ち寄る場所を目指す。

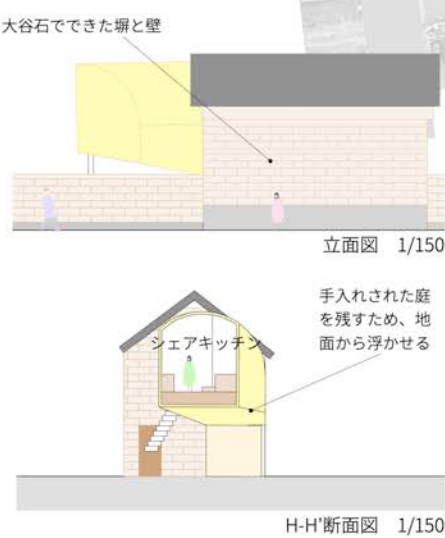
07 洋菓子店アプリケ



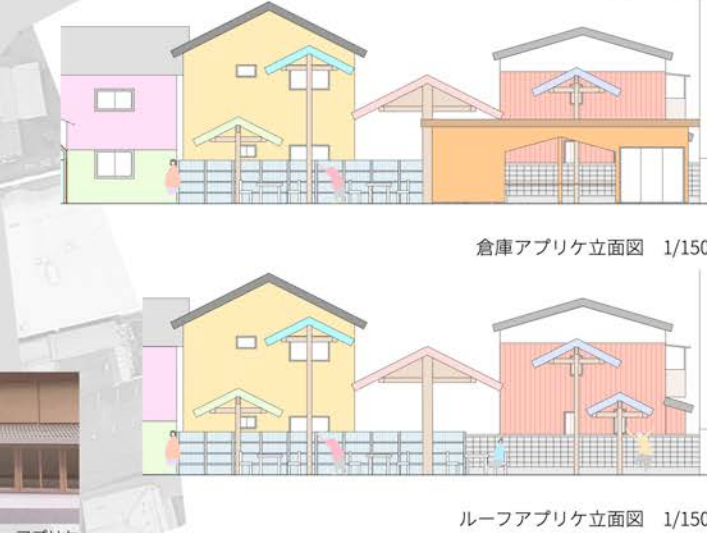
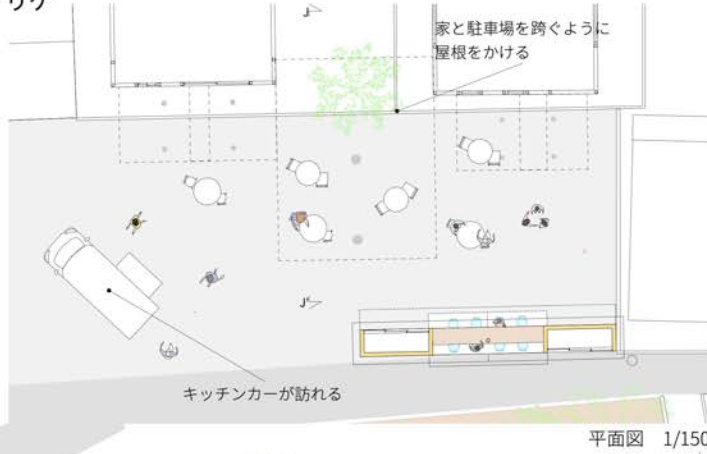
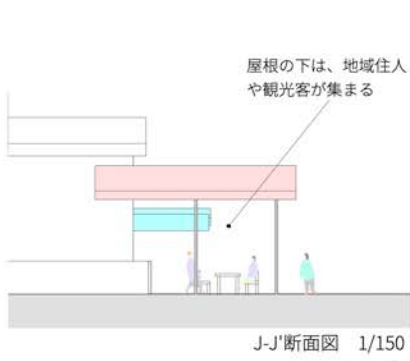
09 パソコン教室アプリケ



08 シェアキッチンアプリケ



10 ルーフアプリケ・テーブル倉庫アプリケ



11 ランドリーカフェアプリケ

